



# アニー・エルノーの衝撃を与えたベストセラー恋愛小説がついに映画化 恋という名の情熱のすべてを描き出す愛と官能の物語

フランスの女性たちの深い共感を呼び、大ベストセラーを記録したアニー・エルノーの小説を映画化した『シンプルな情熱』が7月2日(金)から全国公開となる。彼女の作品を熱く支持する作家・林真理子さんに本作の魅力をうかがった。



小説家

## 林真理子さん

はやし・まりこ／1982年出版のエッセー集『ルンルンを買っておうちに帰ろう』が大ベストセラーに。著書に『不機嫌な果実』『アッコちゃんの時代』『西郷どん!』など多数。数々の文学賞も受賞。近著に『小説8050』などがある。

### エロチックだけど品位と清潔感がある

原作は約30年前に出版され、日本でも話題になりました。私も非常に衝撃を受けましたし、実は当時、原作者と対談しているんです。その作品が時を経て映画化されたことにまず感動しました。

本作は実にエロチックなのですが、全く嫌らしくなくむしろ品位と清潔感を感じるほど。それは主演の2人が魅力に満ちあふれているからです。エレヌ役のレティシア・ドツシュは美しく肉体も知性的。相手のアレクサンドルを演じたセルゲイ・ポルーニンも圧倒的な存在感。元々バレエダンサーだから美しいのはもちろんですが、私は彼のブルーの瞳に惹かれました。口数は少ないのに美しい目が多くを語っていました。

### 恋する情熱は神様からのギフト

恋する情熱とは神様から与えられたギフトなんだと思います。本作はある日突然そんな「ギフト」が与えられた女性の物語。中年に

## 「恋愛力や生きる力が失われている今こそ多くの人に観てほしい」

なるともう持てないと思いがちですが、そんなことはありません。実際、エレヌがもう一度生きるパッションみたいなものを手に入れようとしていた時に若いアレクサンドルが現れ、経験したことのない異空間の世界を連れてきてくれた。彼女はたちまち恋に落ち、片時も携帯を離さず彼からの連絡をひたすら待つだけの日々を送ります。電話があると体が震え、すべてを放り出して会いに行き、彼との抱擁にのめり込んでいく。一見、男性に翻弄ほんろうされているようですが、彼女は受け身ではなく、あくまで自らの意志でその選択をしています。だから墮ちていく感じがまるでない。また、彼女は彼に何かを求めたりといった恋の駆け引きも全くしません。恋を楽しむといったうわついたところもなく真剣に本能でただただ彼を愛している。まさにタイトル通りシンプルだけど強靱きょうじんな情熱。実にすがすがしいです。

### エネルギーが失われている今こそ観る意義がある

このごろ、日本において恋愛力がどんどん失われつつあるように感じていて、人間本来のエネルギーみたいなものも減っている気がしてなりません。そんな時代だからこそ本作ができた意味があるし、私たちが観る意義もあると思います。多くの女性たちがエレヌをうらやましく思い、「もう一回恋をしたい」「誰かを好きになりたい」という気持ちになるはず。私も人に恋するってこんなに素敵なことなんだと改めて気づかされました。最近、こういう大人の映画がなかったですし、よくある恋愛映画とも違うので絶対楽しめます。ぜひ女同士で観に行ってください。共感し合いながら会話も盛り上がるはずですよ。(談)

## シンプルな情熱

### STORY

パリの大学で文学を教えるエレヌは、あるパーティーでロシア大使館に勤めるアレクサンドルと出会い、そのミステリアスな魅力に強く惹かれ、たちまち恋に落ちる。自宅やホテルで逢瀬(おうせ)を重ねるたびに、彼との抱擁がもたらす陶酔にのめり込んでいくエレヌ。年下で気まぐれ、既婚者でもあるアレクサンドルからの電話をひたすら待ちわびる日々の中、エレヌが最も恐れていたことが起きてしまう――。

# シンプルな情熱

7月2日(金)全国公開

原作:『シンプルな情熱』(ハヤカワ文庫/訳:堀茂樹)  
監督:ダニエル・アービッド  
出演:レティシア・ドツシュ、セルゲイ・ポルーニンほか  
配給:セテラ・インターナショナル  
www.cetera.co.jp/passion

